

巻頭言
Greeting

×

鞭木 由行
Yoshiyuki Muchiki
聖書神学舎 図書館長

Profile

聖書神学舎卒業後、茨城県の小川キリスト教会で3年間、神奈川県の上キリスト教会で19年間牧会。2006年より2009年まで聖書宣教会会長。2009年から2017年まで校長。2017年から特任教師として現在に至る。家族寮舎監・図書館長を兼務。



私たちの分水嶺

聖書神学舎の裏には多摩川が流れている。以前東京に住んでいたときには、この川のことを意識することはほとんどなかったが、今は、毎朝その川辺を散歩するのが私たち夫婦の日課となり、春には桜並木を眺め、チューリップ畑、大賀蓮、彼岸花、椿と四季折々の移り変わりを楽しんでいく。この多摩川の源流をご存知だろうか。多摩川をずっと遡っていくと、いうまでもなく奥多摩湖にたどり着き、そこから今度は丹波川と名称を変え、丹波溪谷を流れて一ノ瀬川となり、ついには笠取山(1953m)に到達する。その麓に多摩川の源流となる「水干(みずひ)」がある。多摩川の最初の一雫はそこから始まっているのである。そして、そのすぐそばに、石でできた三角形の、小さな分水嶺が立っている。この分水嶺を境にして、この一帯に降る雨は荒川と多摩川と富士川へとそれぞれ流れ下る。分水嶺とは、辞書によれば「雨水が異なる水系に分かれる場所」そのことから「物事の方向性が決まる分かれ目のたとえ」と説明されている。

ところで、聖書信仰の分水嶺はどこにあるだろうかと考えた。それは聖書論、特に聖書の無誤性を認めるかどうか、というところにあるのではないかと。そう考えたのは、私だけではなく、以前フランス・シェーファーの本(The Great Evangelical Disaster)を読んでいた時、彼が全く同じことを語っていることに気がついた。聖書の無誤性を認めるか否か、これが神学の方向性を決める分かれ目となるのである。今日の教会の状況はそのような現実を如実に反映していると言えるが、多くの人

はそのことに無自覚であるように思えてならない。無誤性の根底にあるのは、聖書の靈感である。ことばのレベルまで聖霊の働きがあったという言語靈感を認めるかどうかということである。神学が変質する根底にはいつも聖書の靈感論についての变化がある。何か新しいことを主張するのであれば、自分がどのような靈感論に立っているのかを明らかにすべきであると思う。以前、神学舎の会長であった舟喜信先生が、聖書信仰を守ることが聖書神学舎の使命だと言われたことを思い出す。

聖書神学舎は聖書に強いが、神学に弱いというようなことが言われたりする。しかし、その場合の神学とは何か。話題となる神学者の新説を追いかけるのが神学ではないはずである。古来神学とはセオロギア(Theo-logia「神のことば」)のことであり、聖書の学びそのものが神学でないかのような錯覚を与えるのは、おかしいことである。神のことばを学ぶことが神学であるはずである。しかし、神学という言葉が非常に広い意味を獲得した結果、聖書の学びよりは神学の勉強をしたいというような考え方も出てくる。しかし、言語として靈感された誤りのない神のことばを学ぶことが本来の神学である。それを追求したい。私たちが神学をしているとは、日々聖書の学びに勤しむことである。その聖書を唯一絶対の規範と告白するのであれば、この分水嶺は限りなく重要である。

No.199 Topics

- p03 理事長交代
- p04 新任講師紹介
- p05 研修生の証し
- p06 学びの窓
- p07 教会音楽専攻委員会から

あなたの神、主があなたとともに

赤坂 泉
Izumi Akasaka
聖書神学舎 校長

「ただ強くあれ。雄々しくあれ。わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法のすべてを守り行うためである。これを離れて、右にも左にもそれではならない。あなたが行くところどこでも、あなたが栄えるためである。このみおしえの書をあなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ。そのうちに記されていることすべてを守り行うためである。… あなたが行くところどこでも、あなたの神、主があなたとともにおられるのだから。」

(ヨシュア記1章より)

ゴールテープはスタートライン

卒業予定者9名には学舎でのゴールがもう目の前です。それはまたスタートラインです。召しに応えて立ち上がったあの日も大きな一歩、神学校卒業もまた大きな一歩です。踏み出す皆さんにエールを送ります、と言うと卒業の祝辞の趣で気が早いんですね。けれども、改めてこの事実を思い巡らしています。節目を刻みながらも、どこまでも進んで行くのです。主の臨在を仰ぎ見て、聖書のみことばに教えられつつ。

伝道者ばかりでなく、キリスト者は皆そうでしょう。定めた目標に到達することは、同時に次の道程への出発です。ともにいてくださる主の祝福が、皆様の上に豊かにありますように。

継続教育

同窓生や伝道者たちのために、ひいては諸教会の益となる継続教育の機会を提供しています。昨夏の研修講座から講義録の抜粋をモノグラフ2号として公開する予定です。オンライン継続教

育として、第一テサロニケの学びを提供中です。来年度の夏期研修講座と教会音楽夏期講習会の概要は8頁にご案内の通りです。

各地区同窓会の主催する研修機会で教師たちが奉仕することも嬉しいこと。同窓諸師や同労者の間でオンラインも活用した相互研鑽の機会が広がっていることを聞くのも喜びです。聖書に聞き続ける伝道者たちを、主が励まし、祝して用いてくださることを祈ります。

新しく

お知らせしていた5名の新講師を今号の誌面で具体的に紹介できることを主に感謝します。先生方の奉仕を感謝し、送り出してくださる教会にも感謝しています。

理事会と評議員会の任期が12月23日付で新しくなったこともお知らせします。末松前理事長が定年で退き、山崎龍一氏が理事会に加わり、小林久実師が新理事長となって、3年の任期が始まっています。

教職員、関係者ら、喜んで主に仕えている一同のためにも、引き続き主の助けをお祈りください。また、さらなる人的資源のためにもお祈りください。専任教師については春にお知らせしたいと思います。次世代の職員も必要です。

人材の面でも、経済の面でも、あらゆる面で主と主の教会に頼ってきた聖書神学舎です。主がお入り用なのであれば、主が供給してくださると信じています。

皆様の上にも、天来の恵みがいつも豊かにございますように。

愛と覚悟をもって

- 新任の所感 -

いつも聖書神学舎を覚えて祈ってくださり、心から感謝いたします。

私は、3年前に神学舎の理事に加えられたばかりで、ようやく一期が終わったところです。まだこの尊い働きの全体を十分に理解しているとはいえません。また、新理事長には、もっとふさわしい方がなれるはずだと思っておりました。ところが、図らずも私が理事の皆様からの推薦をいただきましたので、この大切な役をお引き受けする決心をいたしました。

神がアブラハムに「彼（愛する息子イサク）を全焼のささげ物として献げなさい。」（創世記22:2）と命じられたとき、彼はすぐに用意を整えて、翌朝早くイサクを連れて出発しました。その信仰姿勢を見習うようにと、私自身、講壇から会



小林 久実

Hisami Kobayashi
奈良福音自由教会 牧師

衆に向かって語ってきました。教会の目標聖句にも、「あなたは、わたしに従いなさい。」（ヨハネ21:22）と掲げています。他人に勧めておきながら、自分が従わないわけにはいきません。今回のことは、主からの大きなチャレンジとして受け止めております。

神学舎に対する愛と、主に従い通すという覚悟をもって、理事の皆様とともに、この働きを進めていく所存です。ただ、法的なことにも財務的なことにも疎い者です。これまでも増して、皆様のお祈りとご協力、また率直なご意見や叱咤激励をいただきますよう、お願い申し上げます。それらの結果として、神学舎の働きの前進に貢献できるならば幸いです。

02 理事長交代 From Our Retiring and New Chairpersons

バトンタッチ

- 退任の辞 -

神学校は教会と歩みを共にしています。近年の神学校の入学者の減少は、教会の歩みの苦境と表裏一体とも言えます。聖書神学舎も例外ではありませんでした。

私が理事長を務めさせていただく中で最大の関心事は、そのような状況の下でも神学教育が健全な形で（特に財政的に）継続される事でありました。さらに法的側面では、宗教法人格についての正しい理解に立ち返り、宗教法人としての聖書宣教会と、教育の現場である聖書神学舎の働きを明確化するために規則、規約を改訂する



末松 隆太郎

Ryutaro Suematsu
栄聖書教会 主任牧師

事でした。

任期中にそれらが完成出来た事をご報告させていただきます。改めて、危機の時代にあっても聖書神学舎を支えてくださっている諸教会、主にある兄弟の祈りの手が下りる事はなかったことを、主に感謝します。

理事として、また理事長としての3年間、そのような祈りに支えられて来ました。改めて感謝します。

2025 年度には、5 名の新任講師をお迎えします。
その働きと研修生の学びのために祈りください。



児玉 剛
Takeshi Kodama
日本長老教会
交野キリスト教会 牧師

現代神学

現代神学の授業を担当する児玉剛です。日本長老教会交野キリスト教会(大阪府)で牧師をしています。巷の新しい概念や解釈を鵜呑みにせず、それが聖書本来の教えであるのかを確認することはとても重要です。授業では 18 世紀の啓蒙思想とカントから出発し、これらの概念が神学にもたらした影響を考慮しつつ、前半では 19 世紀から 20 世紀初頭までの主な自由主義(リベラル)神学者について、後半では 20 世紀後半以降の福音派内に生じている「神学のゆらぎ」をみなさんと一緒に検証します。楽しく学びましょう。



重田 岳史
Takeshi Shigeta
日本福音キリスト教会連合
相模原福音キリスト教会 牧師

新約原典講読

私は 2021 年 3 月に聖書神学舎本科を卒業し、現在は JECA 相模原福音キリスト教会にて牧師として奉仕をしております。

私が担当することになりました新約原典講読のクラスでは、それまでに学んできたギリシャ語の文法や語彙の知識を活かして、実際に新約聖書のギリシャ語の原文を読み進めて行きます。原文での読解に慣れ親しむとともに、邦訳には表れてこない原文のより細かなニュアンスを汲み取れるようになることを目指します。

研修生と共に私自身も原典講読を通して、新たな気づきの恵みにあずかれることを期待しています。



青木 義紀
Yoshinori Aoki
日本同盟基督教団
和泉福音教会 牧師

教理史

聖書神学舎には、信仰的な親近感とともに、その厳格な聖書に対する姿勢に敬意の念を抱いてきました。その憧れの学び舎で、出身者でもない私が教鞭を取らせていただけることは、ありがたいことでもあり、同時に恐れ多いことでもあります。前期では、古代信条の成立史をたどりながら、三位一体論とキリスト論の成立を中心に歴史的に考察していきます。後期では、宗教改革以後のルター派、改革派、会衆派、バプテスト派など各教会の信仰告白や信仰問答を取り上げ、各教派の特徴を考察します。教会を建て上げる信仰をとともに養いましょう。



佐味 湖幸
Koyuki Sami
OMF日本ホームサイドセンター総主事
福音交友会 昭和聖書教会 派遣宣教師

宣教学Ⅰ(序論)

宣教学Ⅰ(序論)を担当させていただきます佐味湖幸と申します。神学校で教えることに恐れを感じますが、主が与えてくださった機会と感謝し、学生の皆さんと共に学べることを楽しみにしています。

クラスでは創造から新しい天地の到来に至る聖書全体を「神の宣教」という視点から読み、理解することから始めます。夏期調整期間には宣教学のフィールドワークを経験していただき、後半にはディアスポラ宣教や包括的宣教など、日本宣教を含む世界宣教の今日的課題と実践について考えたいと思います。よろしくお願いいたします。



東海林 隆之
Takayuki Showji
日本福音キリスト教会連合
鷺沼キリスト福音教会 牧師

説教演習(伝道)

「伝道説教」とは何でしょうか。伝道説教でない説教はあるのでしょうか。あるのかもしれないし、ないのかもしれない。1人で考え出すと眠れなくなりそうなので、クラスでみなさんと考えることにします。みなさんとともに、みことばに聞き入り、恐れ、喜び、碎かれ、造りかえられたいと願います。

「しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます(第 1 コリント 1:23a)」

貴重な学びができた

ガウブ ナタナエル

Nathanael Gaub

聖書神学舎 聖書科 聖書専攻2年

神学舎に来る前は「難しい神学校だよ」「めちゃくちゃ勉強しないといけないよ」というようなフレーズを耳にしました。勉強苦手な自分はちょっぴり不安になったりもしましたが、神様が導いてくださっているから、きっと大丈夫!と信じて、神学舎に入学しました。

勉強は確かに難しかったです。1年生の前期からギリシャ語が始まり、後期からはヘブル語が加えられ、聖書の原語をどんどん深めていくのが神学舎の特徴だと言っても良いと思います。ギリシャ語は母国語であるドイツ語に似ているのですが、本当に苦手で苦勞しました。卒業してからもギリシャ語に触れ続けて、新約聖書をより理解できるようになれたらと思っています。ギリシャ語に比べて、ヘブル語はもう少し自分にあっている気がしました。勉強をしながらも楽しい!繋がった!こんな深い意味があるんだな!というような瞬間が多くあり、感謝でした。好き嫌い関係なく、本文から聖書にあたっていくと、やはりもっと自信を持って聖書のメッセージを語ることができました。本文を理解するのは大仕事ですが、このようにして神学舎の先生たちに見守られながら2年間勉強できたのは幸いなことです。

ギリシャ語、ヘブル語、また釈義以外の授業も大変恵まれました。卒業する前に絶対受けたいと思っていた宣教学Ⅱの異端異教を受けることができました。日本の宗教観について教えられ、また様々な宗教が取り上げられ、日本宣教の「鍵」についてともに考えること

ができました。これから宣教師として日本人の間で働く者として、貴重な学びができたと思います。

神学舎での学びにはキリがないのですが、月曜日は休みの日だったので、フットサルをしによく出かけて行きました。そのため、火曜日の早天祈祷会にはたいたい筋肉痛でした。家族寮に住んでいたのも、夜ご飯を作ったり、その買い物をしたりすることによってよりフレッシュすることができました。また、研修生とのキャッチボール、そして木曜は近くにあるプールへ行ってひたすら泳ぐこともしていました。特に大きな喜びだったのは、日曜日の教会奉仕でした。様々な奉仕をやらせてもらい、礼拝後には小中高生たちと分かち合い、遊び、楽しくさせていただきました。

自分なりにバランスを取って、勉強を一生懸命した研修生活だったと思います。神様が一步一步導き、必要を満たし、助けてくださったことに感謝です。ハレルヤ!これからも神様が前に進んで導いてくださることを期待して、聖書と聖書の中心である福音を握りしめて日本宣教に励んでいきたいと思っています。

(写真：サラ夫人と)



「主のみこころは成し遂げられる」

田村 将
Masashi Tamura
聖書神学舎 教師

「しかし、彼を砕いて病を負わせることは 主のみこころであった。

彼が自分のいのちを 代償のささげ物とするなら、末長く子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。」

(イザヤ書 53 章 10 節)

今年度から旧約釈義Ⅲ・Ⅳの授業を担当していますが、2024 年度後期はイザヤ書 52 章 13 節から 53 章 12 節までを毎回 1 節ずつ取り上げて学んでいます。この箇所は言わずと知れた「苦難のしもべ」に関する内容を扱っており(この原稿を書いている 1 月の時点ではまだ授業で扱っていない範囲ですが)、53 章 10 節には「主のみこころ」という表現が 2 回出てきます(原文では最初は動詞形 [ハーフェッツ] で、二度目は名詞形 [ヘーフェッツ] で現れます)。

最初の文脈では「彼(しもべ)を砕いて病を負わせること」が「主のみこころであった」とされ、主がご自分のしもべを打ち砕いて苦しめることがみこころであるという、大変ショッキングな内容になっています。しかし、二度目にこのフレーズが出てくる時には「主のみこころは彼によって成し遂げられる」とされ、単にしもべを砕くことが主のみこころだったのではなく、そこには「成し遂げられる(ツァーラハ)」べき目的があったことが分かります。

ところで「みこころである(ハーフェッツ)」ということばには元々、「～したいと思う」「願う」「望む」「喜ぶ」などという意味があります。それらをイザヤ書 53 章 10 節にあてはめると、しもべを砕くことを主は「望まれ」、それはご自

身の「願う」ことが成就するためだったということになります。こうしてみると、同じ「みこころ」ということばでも、そこには微妙な意味合いの違いがあることに気付かされます。今回の箇所で言えば、最初の「みこころ」はやむを得ず許容的な思いであり、それは二度目の「みこころ(願い)」を成し遂げるためにどうしても必要なことだったという印象を与えます。

そうまでして成し遂げられるべき「みこころ」が何であるのかは、この「しもべの歌」の中で明らかにされます。それは人々に「平安をもたらし(5 節)」「彼らが「癒され(5 節)」しもべが「多くの人を義(11 節)」とするためであることが分かります。つまり、人々の救いが成ることこそが主の「みこころ」であるということです。

こうして主のしもべが砕かれ、病を負うことによって「主のみこころは成し遂げられる」のです。そこには愛する独り子を死に渡してまでも人々を救おうとなさる父なる神の御思いが現わされているといえます。またそれは「ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍(ヘブル 12:2)」ばれた主イエスの姿にも重なることです。そして、主に従うようにと神に召されたキリスト者にもまた、同じことが言えます。キリスト者はいかなる時にも「主のおしえを喜び(ヘーフェッツ)とし(詩 1:2)」みこころに従い、「そのなすことはすべて栄える(ツァーラハ、詩 1:3)」幸いな人なのです。

主の栄光をあらわす者として

田辺 恵子

Keiko Tanabe

みなみ野キリスト教会

私は教会音楽舎を卒業し、主人と共に名古屋の教会で9年、その後東京は八王子の開拓期の教会に遣わされ15年目が過ぎようとしています。それぞれに私たちの思いをはるかに超えた主からの素晴らしい祝福がありました。そして、厳しいお取り扱いも与えられました。しかし、確かに主が、小さく弱い私たちといつも共にいて、励まし、力を与え、憐れみの内に生かしてくださいました。皆さまのお祈りに心から感謝いたします。

私は中学1年の春に受洗し礼拝では奏楽の奉仕をしていました。教会には新会堂建設に伴い、電子ですが足付きオルガンが与えられました。そしてオルガン講習に来てくださった岳藤照子師から「オルガンをやりたければ音楽舎へいらっしゃい」とのお誘いを受け、召命の理解も乏しいまま憐れみの内に入会させていただきました。音楽舎の学びは、音楽を通しての宣教に間に合うよう、ふさわしく整えられるよう、精神的にも身体的にも厳しい訓練の日々でした。岳藤豪希師からはまず、

主を恐れることの大切さ、そして音楽はみことばを感性的に表現するものであることを学びました。そのことは、私が大学でフルートという言葉を持たない楽器を学んでいた時いつも心にあった「主の栄光を現す音楽とはどのようなものか」という問いに、ヒントを与えられた体験でした。「人のおもな目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことです。」(ウエストミンスター小教理問答集)

教会音楽舎卒業後、教会での音楽奉仕は聖歌隊指導や奏楽者の学びやコンサートをさせて頂きました。加えて東日本大震災後は年に数回、津波被害の大きかった名取地区の仮設住宅(現在は復興住宅)でのコンサートにも伺っています。小さき者の小さな奉仕ですが、少しでも主のお役に立てれば、主の喜ばれる働きができれば本当に幸いです。そして、これからも生かされる限り主の栄光を現す音楽を追いつめていきたいと願っています。

2024 年度教会音楽専攻の歩み

矢吹 綾子

Ayako Yabuki

聖書神学舎 教師

今年度は、教会音楽専攻に研修生が与えられ、毎年11月に行われる賛美礼拝で、バッハのモテット、「イエスはわが喜び」よりコラールを歌いました。ローマ人への手紙8章2節のみことばを歌う女声三重唱を、まだ一年生ではありますが、先生方と三人で歌うことができました。

音楽を用いてみことばを宣教する教会音楽の学びのため、聖書科の聖書専攻と同じ聖書科目を履修する他に教会音楽科目を履修するので、ハードな学びとなっていますが、主が学ぶ力を与え、導いてくださっていることを感謝しています。

また、今年度から「教会音楽講座」が開講されました。みことばを土台とした教会音楽の理論と実践を学ぶことができる講座で、前期14名、後期12名の受講生とともに学ぶことができました。集中的に学ぶ教会音楽夏期講習会とともに、年間を通して学ぶ教会音楽講座も用いていただけるようにと祈っています。

● 2025 年度 講座案内 2025 Courses and Schedule

2025年度は次のようなプログラム、講座を予定しています。詳細はウェブサイトやそれぞれの案内をご覧ください。このほかに聴講制度があります(詳細は事務局まで)。

● 拡大教育・継続教育

詳細は開催時期が近づいた頃にウェブサイトでご案内します。

拡大教育

聖書神学舎デイ 聖書神学舎を知っていただき、聖書に親しみ読む喜びを共有する機会です。首都圏の教会で。
教会合唱講座 みことばを土台とした教会音楽を学ぶための講座です。聖書からの講義、教会音楽の理論、実技、作曲を前・後期各7回、東京聖書教会で。

継続教育

旧約・新約釈義 2-3月の平日夜120分を4回、オンラインで。原則として聖書神学舎卒業・修了生対象。

● 第49回 夏期研修講座

「教会と説教」

- D.M.ロイドジョンスの提言 -

期間 : 6月30日(月)～7月 2日(水)

会場 : 奥多摩福音の家

対象 : 牧会者、牧会者の配偶者

講師 : 聖書神学舎教師

詳しくはウェブサイトをご覧ください。

● 第40回 教会音楽夏期講習会

「みことばと音楽」

詩篇100篇「全地よ 主に向かって喜びの声をあげよ。」

期間: 7月23日(水)～ 25日(金)

会場: 聖書神学舎

対象: 聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わっている方、および奉仕の準備をしたい方。教職者・信徒の方も参加できます。

講師: 聖書神学舎教師・講師ほか

詳しくはウェブサイトをご覧ください。

● 2025 年度 主要年間予定 2025 School Year

2025

4月 8日(火)	入学式	10月30日(木)～10月31日(金)	リトリート
4月11日(金)	前期授業開始	11月 1日(土)	後期授業開始
5月21日(水)	祈りの日	11月 8日(土)	オープンデイ
6月 4日(水)～6月 5日(木)	特別講義	11月19日(水)	祈りの日
6月21日(土)～6月27日(金)	集中講義	11月29日(土)	賛美礼拝
6月28日(土)	聖書神学舎デイ	12月18日(木)～1月 6日(火)	クリスマス調整期間
6月28日(土)～8月27日(水)	夏期調整期間		
6月30日(月)～7月 2日(水)	夏期研修講座		
7月中旬～	キャラバン伝道		
7月23日(水)～7月25日(金)	教会音楽夏期講習会		
9月 2日(火)	前期授業再開		
10月21日(火)	前期授業終了		
10月22日(水)～10月31日(金)	秋期調整期間		

2026

1月 7日(水)	後期授業再開
2月 9日(月)	入学試験
2月11日(水)	信教の自由を守る日
3月11日(水)	後期授業終了
3月12日(木)	卒論発表会
3月16日(月)	第67回卒業式